



Noh
ONTSUKI NOH THEATRE

FUNNABENKHI



撮影：青木信二

3.15 (土)

対談 「観世小次郎信光」
高桑 いづみ × 大槻 文蔵

狂言 文蔵 野村 萬斎

能 船弁慶 観世 喜正
重前後之替
早装束
舟唄

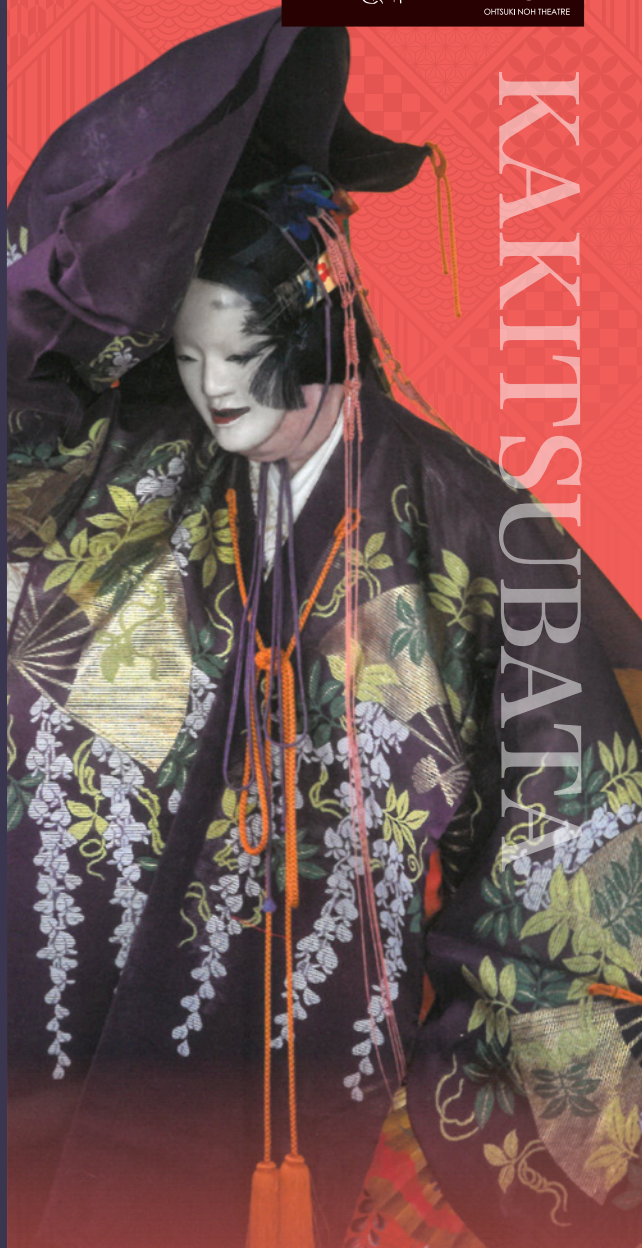
令和六年度
大槻能楽堂
自主公演能

能の魅力を探るシリーズ

大槻文蔵と読み解く能の世界

能作者そして作品

KAKITSUBATA



2.15 (土)

対談 「金春禅竹」
天野 文雄 × 大槻 文蔵

狂言 眞奪 善竹 忠亮

能 杜若 齊藤 信隆
恋之舞

大槻能楽堂

主催：公益財団法人大槻能楽堂

助成：大阪府助成



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
| 独立行政法人日本芸術文化振興会

〒540-0005 大阪市中央区上町A-7
TEL.06-6761-8055
【公式サイト】 noh-kyogen.com

公演パンフレット「おもて」
季刊発行(詞章・あらすじ等を掲載)
1冊:1000円(定価)



令和六年度大槻能楽堂自主公演
能の魅力を探るシリーズ

大槻文蔵と読み解く能の世界

能作者そして作品

第732回 令和7年

2月15日(土) 13:30開場
14:00開演

対談 「金春禅竹」
天野 文雄 × 大槻 文蔵

狂言 眞奪

シテ 太郎冠者 善竹 忠亮
アド 主 善竹 忠重
アド 通りがかった者 善竹 隆司
後見 善竹 隆平

休憩

能 杜若 恋之舞

シテ 杜若の精 齊藤 信隆
ワキ 旅の僧 福王 和幸
笛 齊藤 敦
小鼓 久田舜一郎
大鼓 河村眞之介
太鼓 上田 悟

後見 大槻 文蔵
上野 雄三
生一 知哉

地謡 多久島利之
赤松 禎友
上田 拓司
浦田 保親
寺澤 幸祐
武富 康之
齊藤 信輔
大槻 裕一

(終演予定時刻16時50分頃)

一步踏み込んだ解説講座はいかがでしょう?
月イチ能楽講座 in 大槻能楽堂

講師 大槻裕一・成田奏

料金 2,000円

講座内容 2/10(月)19時～ 演目「杜若」

申込 上記QRコードを読み取り、
申込フォームをご送信ください。

3/12(水)19時～ 演目「船弁慶」

第733回 令和7年

3月15日(土) 13:30開場
14:00開演

対談 「観世小次郎信光」
高桑 いつみ × 大槻 文蔵

狂言 文蔵

シテ 主 野村 萬斎
アド 太郎冠者 野村 裕基
後見 中村 修一

休憩

能 船弁慶 重前後之替 早装束 舟唄

前シテ 静御前 観世 喜正
後シテ 平知盛の怨霊 味方 遙
子方 判官源義経 福王 知登
ワキ 武蔵坊弁慶 喜多 雅人
ワキツレ 判官の従者 中村 宜成
ワキツレ 〃 野村太一郎
アイ 船頭 杉 信太郎
笛 吉阪 一郎
小鼓 山本 寿弥
大鼓 前川 光範
太鼓

後見 大槻 文蔵
赤松 禎友
武富 康之

地謡 上野 雄三
上田 拓司
浦田 保親
味方 團
長山 耕三
齊藤 信輔
大槻 裕一
上野 雄介

(終演予定時刻17時10分頃)

狂言《眞奪》

世の中に平和が訪れて、立花を座敷に飾って客をもてなす会が流行り、主も知人たちを招いて会を催すことにした。ところが立花の「真」(中心)にふさわしい木の枝がない。主は、召し使う太郎冠者連れて東山へ採りに行き、通りがかった者が持っている見事な「真」を見て羨ましくなる。それを察した太郎冠者が奪いに行く。――

善竹忠亮の演ずる太郎冠者が、従兄の隆司演ずる通りの者を相手に奮闘する結末や如何に。主は父の善竹忠重。

能《杜若 恋之舞》

東国へ旅をする僧が三河国の八橋に着くと、沢一面に今を盛りと杜若の花が咲いていた。ここは、昔、在原業平が「かきつばた」の歌を詠んだという『伊勢物語』ゆかりの名所であった。しばらく足を留めて見惚れていると、どこからともなく現れた女が声をかけてきた。――

杜若の花は別の名を顔佳花(かおよばな)とも言い、美しい人の面影を宿すという。眩しい初夏の光の中、唐衣を身に着けて艶やかに舞う女の姿は、業平かと思えば彼の愛した二条后、歌舞の菩薩と思えば杜若の精と、面影は幾重にも重なっていく。齊藤信隆のシテが白日の夢の世界へと誘う。

狂言《文蔵》

召し使う太郎冠者が無断で仕事を休んで出掛けたくえに、帰って来ても仕事に出て来ない。主は家へ出向いて厳しく叱りつけるが、京都見物をして伯父御の見舞にも行ったと聞いて、すっかり機嫌を直す。――

伯父御に何をぞ馳走になったか忘れた太郎冠者(野村裕基)。それを思い出させようと、野村萬斎演ずる主が本気で語る「石橋山合戦」が見どころ。聞きどころだ。落語の「オチ」のような結末が肩の力を抜いてくれる。

能《船弁慶 重前後之替 早装束 舟唄》

源義経は、平家を滅ぼした栄光から一転して兄・頼朝との不和とは修復ならず、都を落ちて西国へ逃れることになった。摂津国大物の船宿で静御前に別れを告げ、義経主従は船出する。ところが、穏やかだった海が急に嵐となり、知盛ら平家一門の怨霊の姿が浮かび上がる。――

前半の静御前の愁嘆と舞、囃子が彩り船頭が活写する海の様子、後半の怨霊と義経の闘いなど、能の繊細優美と躍動が凝縮された屈指の人気曲。観世喜正(東京)が演じ分ける静御前と平知盛はもちろん、野村太一郎(東京)の演ずる船頭が装束の早替えをするのも見どころだ。

文・石淵文恵

入場料金		※友の会：割引特典あり	
席種	前売	当日	
S席	6,500円	7,500円	
A席	6,000円	7,000円	
B席	5,500円	6,500円	
学生(B席)	3,300円	4,300円	
U-25 25歳以下(B席)	席数限定 1,100円	B席 2,100円 立ち見 800円	

公演パンフレット「おもて」や音声演目解説付きチケットも販売中

チケット発売日			※当日券は開演の1時間前より販売		
公演	友の会	一般			
2/15 杜若	12/5	12/16			
3/15 船弁慶	1/6	1/15			

チケットご予約・ご購入

●大槻能楽堂ホームページ(発売日10:00～)
<https://noh-kyogen.com/ticket/>

●大槻能楽堂 事務局(11:00～16:00 不定休)

TEL 06-6761-8055

会場 大槻能楽堂

大阪市中央区上町A番7号

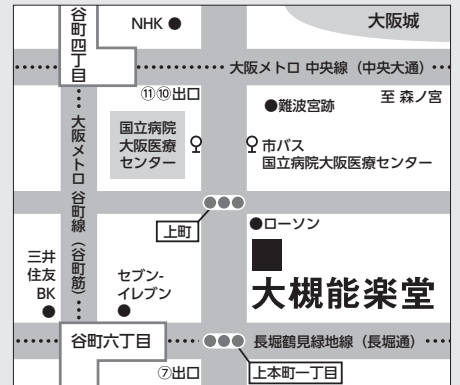
- 大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車、⑩号出口を出て南へ約300m。
(⑪号出口にエレベーター有)
または谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅下車、⑦号出口を出て北へ約350m。
(⑦号出口にエレベーター有)
- 市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ。
※「大阪駅前」から62号系統「住吉車庫前」行き、「あべの橋」から62号系統「大阪駅前」行き。

令和六年度大槻能楽堂自主公演 音声による上映前の解説(日英)

能一番 100円 能(狂言も含む)二番以上 200円

本日の演目をもっと詳しく分かる、音声による演目解説(日英)をご用意しました。開演前、休憩中にぜひご利用ください。

※上演中にご利用いただけません。



※駐車場・駐輪場はございません。

※やむを得ぬ事情により、曲目・出演者・日程・終演予定時刻等の変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承ください。お願ひ申し上げます。

※本公演における写真撮影及び録音・録画は固くお断りいたします。

※上演中は時計等のアラームや携帯電話の電源をお切りください。

※未就学児のご入場はご遠慮ください。